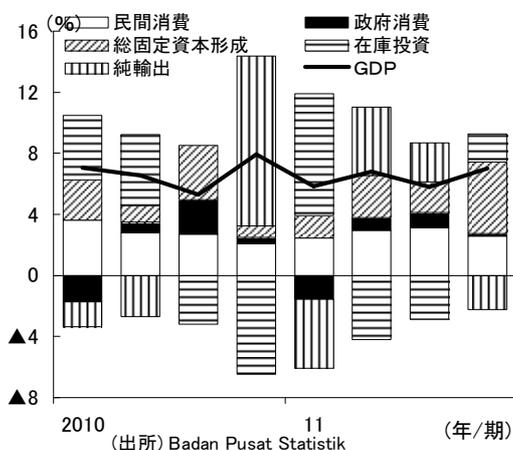


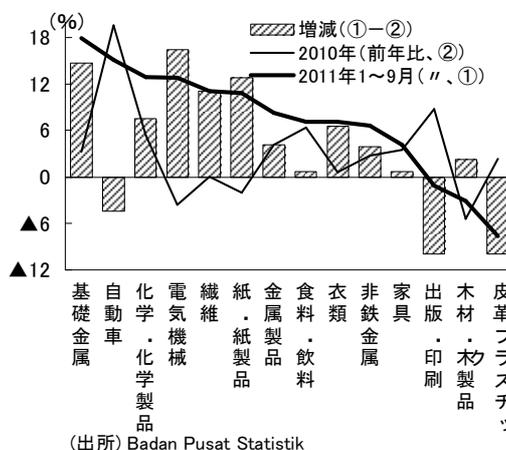
## 成長加速するインドネシア ～ 投資主導型成長へ ～

- (1) 2011年10～12月期、インドネシア経済は前年比実質6.5%成長。2009年末以降、成長ペースは6%前後で一進一退。しかし季節調整を施してみると変化。10年末から11年半ばまで総じて輸出と民間消費が成長牽引。それに対して10～12月期は、純輸出がマイナスに寄与するなか、総固定資本形成、いわゆる設備投資が牽引し、成長ペースが加速(図表1)。前期比年率では7～9月期の5.8%から10～12月期は7.0%へ。10年末以降をみると、総固定資本形成の寄与度が期を追って増加。同国でも投資が投資を呼ぶ高度成長軌道が視野に。
- (2) 生産動向を分野別にみると、従来の牽引役だった木材やプラスチック加工が一段と減少する一方、繊維や衣類、紙製品などの軽工業、金属・金属製品や非鉄金属の重工業、自動車や電気機械などの機械機器がいずれもハイペースの増勢持続(図表2)。積極的な外資の進出にも後押しされ、産業の高度化が急速に進行。
- (3) 所得・雇用環境の改善を受けて消費市場も拡大。分野別に売上高をみると、昨年に入り、一段と衣食住関連が伸張(図表3)。同分野が充足されるのに従い、今後、耐久消費財をはじめ高額消費市場に点火へ。すでに自動車販売台数をみると、昨年に入り二輪車が頭打ちから減勢に転じるなか、四輪車が横這いから昨秋来、再び増勢の兆し。
- (4) これまで同国経済はジャカルター極集中型成長。しかし自動車販売を含めた民間消費や国内生産など、近年の経済成長はむしろ地方圏主導。旅客数をみても、国際線が昨春来一進一退で推移するなか、国内線は昨年半ば以降、再び力強い増勢へ(図表4)。地方圏の成長はスマトラ島など産業基盤のあるエリアにとどまらず、スラウェシ島やスンダ列島、カリマンタン島など広範囲に拡がり。投資主導型成長への転換が進む現状に照らせば、本年も同国経済は6～7%の高成長持続の公算大。

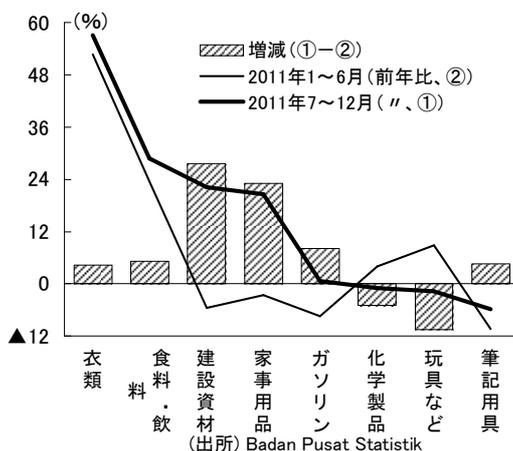
(図表1) インドネシアの実質経済成長率(前期比年率)



(図表2) 分野別鉱工業生産



(図表3) 分野別小売売上高



(図表4) 国際・国内線別出発旅客数(季調済年率)

